

肥料の原料管理や肥料の品質管理などを定めた「品質管理計画」を作成し、農林水産大臣による確認を受けることが義務付けられた肥料。品質管理計画に基づいて生産されることで、品質管理が徹底され肥料成分が安定することから、肥料成分を保証することが可能になることに加え、他の肥料と混ぜて生産・販売することができるようになる。

仕事をしながら家族の介護も行っている人のこと。

質問 平和への意識を高めるため、広島への修学旅行を推進していく考えは。
答弁 中学校の修学旅行は、歴史や伝統などを学ぶために関西方面が多く、防災教育に力を入れていく学校は東北に赴くなど、各学校が学校の実情や教育課程等を基に行き先を決定している。広島を訪れることは、平和について考える機会として大変意義深いものと考えているが、移動距離による生徒の活動時間の制限や予算が課題と考えている。

質問 2029年に群馬県で全国障害者スポーツ大会が開催される。コロナ禍の影響で激減している競技人口を増やすための、本市の取り組みは。
答弁 関係機関を通じて障害者スポーツ大会等の案内を送付し、情報提供に努めているほか、軽スポーツ出前講座で障害のある人でも気軽に参加できる種目を取り入れるなど、障害者スポーツの裾野を広げる取り組みも実施している。

質問 本市の外国人住民数は、この10年間で約2倍に増加しており、南上並複留學生住宅において、本市が民間の共同住宅を借り上げ、令和4年度から留學生に加えて介護施設等で働く外国人労働者の住宅としても活用している。令和6年8月末の入居率は約7割であり、現在も福祉施設から多くの問い合わせがある。
質問 農業振興における汚泥肥料の普及に向けての課題は。
答弁 汚泥肥料で育てた農産物に対する消費者のネガティブなイメージをいかに払拭するかという点が課題である。また、従来の汚泥肥料は品質が不安定で農業者が使いにくいことも課題であったが、国が新たに菌体りん酸肥料という規格を定め、成分の保証や品質の安定を図り、使いやすい肥料の生産を推進している。

質問 本市のスポーツ振興への取り組みは。
答弁 市民がたくさんのスポーツに触れられるよう「見る」「見る」「支える」の各分野で積極的に取り組んでいる。
質問 本市のスポーツ施設の利用における高齢者や障がい者、市民への優遇措置は。
答弁 浜川温水プールと新町温水プールでは、高齢者や障害者の利用料を一般の半額程度にしている。清水善造メモリアルテニスコートでは、居住地等の要件によらず利用条件は同一としているが、今後、利用時間の区分を見直して予約を取りやすくするなど、利便性向上に向けて検討する。

質問 市内循環バスぐるりんは時刻どおりの運行や停留所に屋根やベンチの設置要望があるが、改善に向けた対応は。
答弁 屋根やベンチの設置は、バス停周辺の歩道幅などの道路状況に加え、道路管理者など関係機関と調整を要することから、容易ではないと考えている。利用者がバス停で待つ時間が可能な限り短くなるよう、デジタル技術の活用により、さらなる利便性の向上を図っていききたい。
質問 認知症対策として、加齢性難聴者の補聴器購入に助成制度を設ける考えは。
答弁 日常生活に支障がある難聴で障害者手帳の交付を受けている人には現在補聴器の購入助成があるが、聴覚に限らず他の身体的な障害も、それぞれに補装具があるため、独自の助成制度については公平性の観点からも慎重に研究する必要があると考えている。

質問 町内会によりごみステーション数に大きな差がある。大きな町内では環境保健委員が1人でごみステーションを管理するのは無理があり、実情と違うため、環境保健委員の定数を町内に1人ではなく、町内会の世帯数に応じて増やし、それぞれに均等割報酬を支払うことができないか。
答弁 環境保健委員の報酬は、環境保健活動の対価として固定額を支払う均等割額と、世帯数を基礎にして算出する世帯割額の合計としている。均等割額については、業務量の大小にかかわらず一律であり、世帯数やごみステーション数に応じて配分を変えることは難しいと考えている。一方、世帯割額は、世帯数を基準に算出しているため、業務量の違いにより報酬は変わることになっており、令和5年度には1世帯当たりの単価の引き上げも実施している。

質問 令和6年1月30日に吉井分屯地内で発生した林野火災の内容と、今後の改善策は。
答弁 陸上自衛隊吉井分屯地からの報告によると、射撃試験時に何らかの火種が発生した可能性は否定できず、約700平方メートルの野草が焼失したとのことだった。処置対策としては、射撃試験場所から外部に火種が漏れないような改修を実施すること、迅速な初期消火に努めること、防火帯の整備を引き続き行うことなどが示されている。
質問 老朽化している牛伏山の展望台を改修する考えは。
答弁 牛伏山の展望台は天守閣を模した建物で、牛伏山のランドマークとなっている。建設から35年経過し、幾度かの改修を経て現在に至っているが、老朽化が顕在化している。今後も必要な修繕を講じながら、適切に維持管理していきたいと考えている。

質問 新型コロナウイルス感染症の予防疫種健康被害救済制度の申請状況は。また、定期接種となることで制度の取り扱いに違いはあるのか。
答弁 令和6年9月1日現在、本市では34件の申請があり、認定が23件、否認が4件、審査中が7件で、このうち死亡事例の認定は2件であった。定期接種となったことで請求期限が設けられたほか、定期接種対象外の人は任意接種となるため、健康被害があった場合は医薬品副作用被害救済制度を活用することになる。
質問 ビジネスケアラーに対する本市の取り組みは。
答弁 本市では職員が仕事と介護を両立できるよう、年度で5日間取得可能な有給の短期介護休暇のほか、無給の休暇として介護休暇や介護時間などの休暇制度を整備している。今後も、制度の周知と職場環境の整備に努めたい。

農業振興地域の整備に関する法律に基づき、土地利用計画で農地として利用すべき農地として指定されている農地のこと。やむを得ない事情でこの農地を他用途に利用するためには審査が必要となる。

質問 平和への意識を高めるため、広島への修学旅行を推進していく考えは。
答弁 中学校の修学旅行は、歴史や伝統などを学ぶために関西方面が多く、防災教育に力を入れていく学校は東北に赴くなど、各学校が学校の実情や教育課程等を基に行き先を決定している。広島を訪れることは、平和について考える機会として大変意義深いものと考えているが、移動距離による生徒の活動時間の制限や予算が課題と考えている。

質問 堤ヶ岡飛行場跡地は広大な青地農地である。本市の農業政策における位置付けは。
答弁 当該地は、新しい産業拠点として活用する方針が示されている。この事業では広大な農地が減少することとなるが、荒廃農地の解消や農用地を確保するなど、都市的土地利用と農業の健全な調和を図り農業振興に努めていく。

質問 本市の外国人住民数は、この10年間で約2倍に増加しており、南上並複留學生住宅において、本市が民間の共同住宅を借り上げ、令和4年度から留學生に加えて介護施設等で働く外国人労働者の住宅としても活用している。令和6年8月末の入居率は約7割であり、現在も福祉施設から多くの問い合わせがある。
質問 農業振興における汚泥肥料の普及に向けての課題は。
答弁 汚泥肥料で育てた農産物に対する消費者のネガティブなイメージをいかに払拭するかという点が課題である。また、従来の汚泥肥料は品質が不安定で農業者が使いにくいことも課題であったが、国が新たに菌体りん酸肥料という規格を定め、成分の保証や品質の安定を図り、使いやすい肥料の生産を推進している。

質問 市内循環バスぐるりんは時刻どおりの運行や停留所に屋根やベンチの設置要望があるが、改善に向けた対応は。
答弁 屋根やベンチの設置は、バス停周辺の歩道幅などの道路状況に加え、道路管理者など関係機関と調整を要することから、容易ではないと考えている。利用者がバス停で待つ時間が可能な限り短くなるよう、デジタル技術の活用により、さらなる利便性の向上を図っていききたい。
質問 認知症対策として、加齢性難聴者の補聴器購入に助成制度を設ける考えは。
答弁 日常生活に支障がある難聴で障害者手帳の交付を受けている人には現在補聴器の購入助成があるが、聴覚に限らず他の身体的な障害も、それぞれに補装具があるため、独自の助成制度については公平性の観点からも慎重に研究する必要があると考えている。

質問 令和6年1月30日に吉井分屯地内で発生した林野火災の内容と、今後の改善策は。
答弁 陸上自衛隊吉井分屯地からの報告によると、射撃試験時に何らかの火種が発生した可能性は否定できず、約700平方メートルの野草が焼失したとのことだった。処置対策としては、射撃試験場所から外部に火種が漏れないような改修を実施すること、迅速な初期消火に努めること、防火帯の整備を引き続き行うことなどが示されている。
質問 老朽化している牛伏山の展望台を改修する考えは。
答弁 牛伏山の展望台は天守閣を模した建物で、牛伏山のランドマークとなっている。建設から35年経過し、幾度かの改修を経て現在に至っているが、老朽化が顕在化している。今後も必要な修繕を講じながら、適切に維持管理していきたいと考えている。

質問 令和6年1月30日に吉井分屯地内で発生した林野火災の内容と、今後の改善策は。
答弁 陸上自衛隊吉井分屯地からの報告によると、射撃試験時に何らかの火種が発生した可能性は否定できず、約700平方メートルの野草が焼失したとのことだった。処置対策としては、射撃試験場所から外部に火種が漏れないような改修を実施すること、迅速な初期消火に努めること、防火帯の整備を引き続き行うことなどが示されている。
質問 老朽化している牛伏山の展望台を改修する考えは。
答弁 牛伏山の展望台は天守閣を模した建物で、牛伏山のランドマークとなっている。建設から35年経過し、幾度かの改修を経て現在に至っているが、老朽化が顕在化している。今後も必要な修繕を講じながら、適切に維持管理していきたいと考えている。



三島久美子 (たかさぎ未来)

平和への取り組み
農業振興



逆瀬川義久 (公明党)

外国人への生活支援
農業における汚泥肥料の課題



伊藤敦博 (日本共産党)

地域公共交通の課題
加齢性難聴者に対する支援



角倉邦良 (無所属)

吉井分屯地内で発生した林野火災と防火体制
牛伏山を活用した吉井地域の観光振興